



2022年12月7日

各位

会社名 株式会社 トップカルチャー
代表者名 代表取締役社長 COO 清水 大輔
(コード番号 7640・東証スタンダード)
問合せ先 取締役財務部長 CFO 吉田 勝一
TEL 025-232-0008
<https://www.topculture.co.jp>

通期業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、2022年12月7日付の取締役会書面決議に基づき、2022年6月7日に公表いたしました通期業績予想について、下記のとおり修正することとしましたのでお知らせいたします。

なお、当社の2022年10月期の決算発表は、2022年12月8日を予定しております。

記

1. 業績予想の修正について

2022年10月期 通期連結業績予想数値の修正 (2021年11月1日～2022年10月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	22,825	129	104	48	4.03
今回修正予想 (B)	20,928	△128	△161	△272	△22.58
増減額 (B-A)	△1,897	△257	△265	△320	
増減率 (%)	△8.3%	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2021年10月期)	26,407	356	276	△1,939	△160.52

2. 業績予想修正の理由

当社グループの主軸である蔦屋書店事業において、賃貸借契約期間満了のため東京都内他5店舗の営業を終了したことが売上高/利益面共に影響いたしました。またそれに伴い発生した費用を特別損失に計上する見込みであります。

その他、引き続きエネルギーコストの高騰による光熱費の増加や各種備品、資材の大幅な値上げがあり販管費の負担が増し、利益面に大きな影響を与えました。また2022年9月に4年半ぶりにオープンした新店における成長投資にかかる費用も時限的に発生しております。

3. 特別損失の計上について

当社は、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、閉店が確定した店舗を含め、収益性が低下している店舗の固定資産に対する減損損失を64百万円追加計上し、第3四半期計上分と合わせて89百万円を特別損失として計上する見込みであります。加えて雪害に伴う災害損失25百万円のほか、閉店に伴う固定資産処分損20百万円を合わせた135百万円を特別損失として計上する見込みであります。

※上記の業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上